

# 日本性科学会 ニュース

第30巻第4号

平成23年(2011年)12月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株) 紹文社

## 2012年研修会・学会・研究会の開催予告

### 1. 第6回日本性科学会近畿地区研修会

日 時: 2012年1月29日(日) 10:00 ~ 12:55

会 場: 大阪市立大学医学部医学科舍6階中講義室 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3

会 費: 3,000円 (学生500円) 当日会場でお支払い下さい。

申し込みについて: 当日参加も可能ですが昼食の準備のため事前申し込みにご協力ください。

事前申し込み FAX 06-6645-3796: 第6回性科学研修会参加希望と記し、

氏名 連絡先 (メールアドレスまたは電話番号) を記載お願いします。

【クリニックカルカンファレンス・性治療の実際】

座 長

男性の更年期

聖隸浜松病院泌尿器科医長

今 井 伸

厚

基

男性機能障害の実際

岩佐クリニック院長

岩 佐 中

幹

女性の性障害と不妊治療の間の問題

やまなかクリニック院長

山 中

美

大阪市立大学

森 村 奈

担 当 大阪市立大学大学院医学研究科産科婦人科学教授 石 河 修

事務局 総合診療センター 森 村 美 奈

#### 【特別企画】

日本性科学会・女性心身医学会 合同ランチョンセミナー 12:00 ~ 12:55

演 者 日本性科学会理事長 大川 玲子

スポンサー: ジェクス株式会社

### 第14回日本女性心身医学会研修会

日 時: 2012年1月29日(日) 13:00 ~ 16:30

会 場: 大阪市立大学医学部医学科舍6階中講義室 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3

会 費: 3,000円 (当日会場にてお支払い下さい)

テーマ: 「女性のストレスを考える」

プログラム

1. 「臨床に役立つ医療面接—心身医学的立場から—」

近畿大学医学部堺病院准教授

小 山 敦 子 恵圭信

ふじたみつえクリニック院長

藤田 光

大阪市立大学医学部附属病院病院教授

山村 蔵 文

大阪大学大学院医学系研究科准教授

津石 敏

担 当 大阪樟蔭女子大学大学院教授 甲 村 弘 子

### 2. 第41回性治療研修会

日 時: 2012年5月20日(日)

会 場: 東京慈恵会医科大学西新橋校(東京) ※昼休みに、2012年度日本性科学会総会を開催致します。

### 3. 第12回アジア・オセアニア性科学会

テーマ: アジア・オセアニアにおける性の健康の普及増進 公用語: 英語 (一部日本語)

共 催: 第32回日本性科学学会・2012年度全性連 第42回全国性教育研究大会

日 時: 2012年8月2日(木) ~ 5日(日)

会 場: 松江市くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)

日程と主なプログラム

8月2日: 登録 プレコングレス・講演 (Milton Diamond)

ワークショップ (Margaret Redelman, 金子和子)

公開シンポジウム (性教育)

8月3日: 開会式 基調講演 (大会会長 大川玲子 Kwansung Park)

シンポジウム 一般演題 (口演・ポスター)

総懇親会

8月4日: 基調講演 (長谷川真理子, WAS会長. Rosemary Coates)

シンポジウム 一般演題 (口演・ポスター)

公開講座 (森岡正博)

8月5日: シンポジウム 閉会式

Vol. 30

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

No.

4

## [症例研究会から]

### 摂食障害 eating disorder E.D.

主婦会館クリニック産婦人科 堀口 雅子

婦人科に主訴・月経異常で来院される方の中に、無月經、現在～過去に強度の体重減少・拒食歴を持つ人は多い。過食のほうが判り難く、診療期間中に出現・認知されることが多い。E.D.との出会いから40年余。早期改善、診療中断、妊娠・出産の吉報、10～20年継続受診etc.経過は多様である。母・父、祖父母達の性格etc.3代にわたる深い関係も見られ、個性・時代・家族背景etc.の織りなす疾患である。わが子の愛し方に戸惑う母が、愛された実感のない女性であったケースetc.もあり、離婚家庭の増加とそれに至るまでの家族間のトラブルetc.誘因はあり、まだまだ続く道と思う。最近のE.D.発症年齢低下も問題で、思春期準備中の下垂体・卵巣のホルモン分泌が阻害され、18歳に達しても初経発来の無い原発性無月經の状態をきたす。家庭・学校での心と体の問題に注目する必要がある。他方、改善後まだ体重に拘り、妊娠中の体重調節の結果、出生児の平均体重減少傾向にあるとの報告も見られる。元患者の体重への拘りは、母となても持続し、E.D.の娘の目前で、平然と体重減少目的の体操を続けるケースもある。わが子は、理想体重をはるかに下回る状態で母に追従する。父親の無関心、或は、母親が一人で抱え、パートナーに協力を求めない現代社会も淋しい。

症例；A子、34歳 医療系技術職（休職中）。

初診及びその後の診療体系；①22歳（大学生）。総合病院産婦人科②27歳（パート職）。主治医転職先クリニックに移行。③29歳以降 クリニック内、E.D.に経験ある心理療法士の併診。

主訴；月経異常（3年来の無月經と体重減少）。初診時、147cm/自称33kg、実測値=31.6kg（150cm以下の理想体重： $147 - 100 = 47\text{kg}$ 。 $-10\% = 42$ 、 $-20\% = 37$ 、 $-30\% = 32$ ）

家族；父・母（61歳）・妹（-3歳）特に問題は無い。

既往；小学校高学年より、極端な体重減少のため小児科入院。当時は家族にも正確なE.D.の指導無く、強制的食事指導etc.に反発しつつ、一応、体重増加・退院。その時の医師に対する不信感は今日なお強烈である。病因の一つと思われる母親との葛藤・反発心も当時増強しており、共にその後の人生に強いマイナスの影響を残しているという。母の生活態度・教育方針に耐えつつ病気を隠し学校生活を続けていた。母は、特に異常性格ではないが、初めての育児に簡単に適応できる人ではなかったのか、患者の持つ繊細さに対応できなかったのか。3歳下の妹は、育児になれた母親によるのか、性格的なものか姉の問題にあまり影響されず成長している。父は、特に密接でも・反発的でもなく、E.D.の理解度は不明。

経過；病院の思春期外来は、ゆとりを持ち本人・母親・両人etc.の話を聞くことの出来る設定。

病気の理解・一歩ずつの改善に協力。精神科所属心理療法士による母子カウンセリングも併行して受けた。

検査結果；①脳の性腺刺激ホルモン・卵巣の女性ホルモン低値。②栄養摂取量 低下を示す蛋白質・コレステロール・中性脂肪etc.低値。更にE.D.特有の肝機能障害・代謝障害を示すアミラーゼ・リパーゼ異常値。③Hbは正常。貧血はないが、鉄分・蛋白質は低値限界。治療；先ず心理面改善・体重増加に努める。しかし、本来のがんばり屋+過活動・学業・友人関係etc.の問題のため体重減少著明となり、(23才)精神科入院。1～2ヶ月、点滴等を受ける。幼児期と異なり、多少意欲的に受容する。肥るのが怖い・食べ過ぎると気持ちが悪くなる・変わることが怖いetc.はあるが、ぎりぎりの体重で退院。心身の外来治療再開。月経対策；体重減少の激しいとき、栄養の偏りがある中で月経（蛋白質・鉄分喪失）はマイナスのため、月経誘発は避ける。やがて体重増加は無いが、-30%以下ではない、精神的安定感の見られていることから、卵巣その他への血流増加目的で漢方薬投与。次いで出血を誘発しない程度の、弱い女性ホルモン（卵胞ホルモン）を周期的に投与。更に、更年期同程度のホルモン治療から徐々に若者向けの治療に移行し、3ヶ月投薬・3ヶ月休薬のカウフマン療法を2年ほど経過したところ、31歳で自然月経発来。性腺刺激ホルモン（FSH・LH）、卵巣の女性ホルモン（E2）分泌も正常化。体重33.4～34.0kg。しかも短期間に排卵を伴うようになった。

22歳初診。27歳クリニック移行。29歳E.D.専門心理療法士併診。このカウンセラーとの出会い・信頼により30歳以降、自分を語る傾向が出てきた。32歳頃から治療に専念したい意欲が起きた。医療者に話せる、かくさない。32歳で一人暮らし開始。母も5年前から心理の学習開始。父もクリニックに顔を出し支援の態度を示す。本人も前より親近感を持つ。母とも現実をうけとめつつ、適度な距離の取り方を模索中。33歳、E.D.勉強会参加後「貴女は悪くない、完璧でなくていい」と思考の変化。体重も35.5kg、まだこだわりの多い日常だが、被害的傾向、自己認知欠如傾向は、だいぶ軽減され、新しい道を検討中のこと。

心理療法士は、これまでの堀口の治療・信頼関係がしっかりベースになり今日の成果と支援してくれるが、何故もっと早くバトンタッチできなかつたかという反省のリポートである。

## 第13回性科学セミナー報告

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース 石丸 径一郎

国内の性科学に関連の深い7団体による日本性科学連合が「性科学セミナー」を年に1回開催している。第13回となる本年は、第31回日本性科学学会の前日である2011年10月1日に、東京慈恵会医科大学西新橋校にて開催された。テーマは3月に発生した東日本大震災を受けて「災害とジェンダー、セクシュアリティ」とされ、特別講演には東日本大震災女性支援ネットワーク・女性の安全と健康のための支援教育センターの丹羽雅代先生に「震災復興にジェンダー・多様性の視点を」と題してお話をいただいた。他にも、東京医療保健大学の渡會睦子先生より「震災における生と性を守る意味とは」、東京歯科大の小川真理子先生より「災害とジェンダー」、日本家族計画協会の小長井春雄先生より「災害時におけるリプロダクティブヘルスの国際支援」、順天堂大学の内藤俊夫先生より「ワクチンの基礎知識：災害と性行為感染症に関連して」のご講演をいただいた。私たち日本性科学会からは、仙台市にて産婦人科開業をなさっている村口喜代理事が「“大震災”地震・津波・原発事故とセクシュアルヘルス」と題して、ご自身の被災体験や被災後の仙台の産婦人科医療の実情も交えた臨場感のあるご講演をされた。東日本大震災に対してはさまざまな側面からの支援がおこなわれているが、性の観点からの支援は見落とされがちであり、非常に重要なテーマのセミナーであった。

## 第31回日本性科学学会学術集会を終えて

第31回日本性科学学会長 茅島江子

本年10月2日(日)に東京慈恵会医科大学で「性の健康を未来につなぐ」をメインテーマに第31回日本性科学学会を開催した。特別講演2題、シンポジウム2題、一般講演11題の発表が行われた。森千里千葉大学大学院教授の特別講演「環境因子と子どもの健康」では、放射性物質を含めた環境汚染物質の子どもの健康への影響、環境改善型予防医学の必要性について語られた。森先生は慈恵医大創設者の高木兼寛先生と「脚気論争」をした森鷗外氏のひ孫で、座長の栗原慈恵医大学長からは「高木先生も森先生も予防医学という点で共通しており、今後、連携していくなら、森先生からも『慈恵医大と連携していきたい』との発言があった。「脚気論争」から実に100年後に交流が実現した。高村寿子自治医大名誉教授の特別講演「人権とセクシュアリティー日本とラテン社会でのピアカウンセリング活動を通して-」では、性教育の手法としてのピアカウンセリングを日本に導入され、現在は普及活動の場をオンラインに移しての活動から、人権を守ることの大切さが語られた。シンポジウム「看護における性の健康支援」では、糖尿病、脊髄損傷、不妊、がんなどの病気や障害を持っている方々が抱える性に関する様々な困難、および看護援助の実際の紹介があった。シンポジウム「性暴力・性犯罪とその対応」では、被害者の心身への影響の深刻さや被害者が一か所で総合的に支援を受けることのできるワンストップセンター設置推進の必要性、加害者治療プログラムやカウンセリングの実際が紹介された。一般講演でも活発な討論が行われ、「性の健康を未来につなぐ」支援の輪が今後広がっていくことを実感させる学術集会となった。

## 第40回性治療研修会の報告

日本性科学会幹事 大谷眞千子

平成23年5月22日(日)に第40回性治療研修会を実施し、65名の方々にご参加いただきました。

アンケート結果の一部を以下にご報告します(回答数32名:会員27名、一般5名)。

✓ アンケートにお答えいただいた方の職種の内訳は表1のとおりです。

表1. Q: あなたの職種は? (数値は実員数)

	医師	臨床心理士	看護職	教育・研究	その他	無回答	合計
合計	17	1	4	1	9	0	32

✓ 講演に対する評価を表2に示します。

表2. Q: それぞれの講演は役立ちましたか? (n=32)

講演	はい	ややはい	どちらともいえない	ややいいえ	いいえ	無回答	合計
思春期のセクシュアル・マイノリティのメンタルヘルスと対応	50.0%	12.5%	15.6%	9.4%	0%	12.5%	100%
セックスワークと性の健康	59.4%	21.9%	3.1%	3.1%	0%	12.5%	100%
射精のひみつ	37.5%	21.9%	18.8%	3.1%	3.1%	15.6%	100%
カウンセリング演習「アルゴリズムをつくろう」	46.9%	9.4%	12.5%	9.4%	0%	21.9%	100%

半数以上の方々から肯定的なご意見をいただきましたが、例年に比して判断に迷われた方が多い傾向にありました。

✓ 今後取り上げてほしいテーマについては、以下のようないご要望がありました。

「性暴力」、「性教育」、「災害と性」、「セックスレス事例」、「セクシュアル・マイノリティ(障害者)の性」、「社会学の立場からのセクシュアリティ」、「性交疼痛症」など

今後とも皆様からのご意見、ご要望を活かして研修会を発展させたいと考えております。アンケートにご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

## お知らせ!!

日本性科学会事務局およびカウンセリング室は来る1月1日より下記に住所移転となります。

詳細は追ってホームページ <http://www14.plala.or.jp/jsss/> に掲載いたします。

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F TEL・FAX 03-3868-3853

(e-mail; jsss@beige.plala.or.jp は変わりません)

## 2012年 日本性科学会理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程に従い、2012、2013年度の理事の立候補を受け付けます。

立候補希望者は事務局にお申し出下さい。必要書類を郵送します。

尚、ブロックについては、第4回総会の承認に基づき、全国1ブロックとします。

1. 定 員 10名以内
2. 立候補資格 2011年12月末日現在、入会後満3年を経過し、会員5名によって推薦された正会員
3. 立候補締切 2012年2月15日
4. 申し出先 〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F 日本性科学会選挙管理委員会

2011年12月15日

日本性科学会選挙管理委員会  
委員 針間克己  
大谷眞千子  
高橋都  
花村温子

### 選挙日程

理事当選者発表 3月（候補者が定員を上回る場合は会員の投票による）

新理事の総会承認 5月（予定）

新理事の告示 日本性科学会ニュース 2012年6月号

以 上

## 資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2011年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行いました。厳正なる審査に結果、以下のように新規セックス・カウンセラー1名、更新セックス・カウンセラー1名、セックス・セラピスト1名が認定されました。

新規認定 セックス・カウンセラー 宮野恭一

更新認定 セックス・カウンセラー 荒木乳根子

セックス・セラピスト 塚田攻

来年度も新規認定、並びに更新認定（2007年資格取得者が該当）の手続きが行われます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2011 vol.29 no.1掲載の 資格認定規定並びに資格更新規定を御熟読の上、ご準備をお願い致します。特に、学術集会・研修会などに御出席の受講証・出席証は、必ず御保管下さい。

申請の詳細は、2012年6月発行のニュースに掲載されます。



## 第12回アジア・オセアニア性科学学会

2012年8月2日～5日 於：松江市

第12回アジア・オセアニア性科学学会（12th AOCS）は、第32回日本性科学学会、および日本性科学連合による第14回性科学セミナーを兼ねております。主なプログラムは本ニュースレターの表紙ページに掲げました。日本性科学学会はこの学会の第3日目、8月4日の午後に開催し、日本語による教育講演を用意する予定です。一般演題としては是非AOCSに投稿していただきたいと思います。口演、ポスターがあります。

学会登録、抄録受付は1月にスタートします。登録費は3月末まで35,000円ですが、以後40,000円となります。学生は時期を問わず5,000円と言う破格値段ですので、是非参加をお勧め下さい。松江市は文化の香り高い観光地ですが、空路としては米子、出雲の空港からほぼ等距離です。学会中に出雲大社への観光バスツアーも企画しております。

学会の成功はひとえにみなさまの参加にかかっておりますが、準備資金として会員のみなさまのご寄付も受け付けております。ご協力よろしくお願い申し上げます。

2011年12月 日本性科学会理事長・第12回アジア・オセアニア性科学学会会長 大川玲子